

平成20年2月 和歌山県議会定例会会議録 抜粋  
第2号（山田正彦議員の一般質問への知事答弁）

現在、関西広域機構において検討しております関西広域連合には、第1に関西における広域行政を効果的、戦略的に推進することを、第2に国の事務・権限の移譲の受け皿としての役割を担うことを期待していることは事実でございます。

議員御指摘のように、検討に参加している府県、例えば知事さんとか当局、あるいは財界人の中には、広域連合に国から事務・権限の移譲を受けて、それで実績を積み重ねることで将来の地方分権型道州制につなげようと考えているところもあるようであります。しかし、このことが必ずしも共通認識になってるわけではありません。

私は、関西の各地域が豊かな個性を連携しながらスケールを広げ、首都圏と異なる多様な価値が集積する日本のもう1つの中心核として関西圏が発展していくことが大事であり、それがまた本県が発展していくためには不可欠であると考えておりまして、積極的に議論に参加していきたいと考えてきたところです。

今後とも、本県といたしましては、広域的な課題を解決することで元気な関西圏づくりにつなげていくという、それ自体大事な観点から積極的に議論に参画してまいりたいと考えております。